

薬剤師のための栄養療法管理マニュアル

吉村 知哲, 寺田 智祐 ● 編

B6変型・頁400
定価:3,960円(本体3,600円+税10%) 医学書院
ISBN978-4-260-05029-6

【評者】室井 延之
神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部長

医療の高度化・専門分化とセーフティマネジメントの観点から、薬剤師が輸液・栄養療法にかかわる必要性はますます高まっている。さらに、地域完結型医療の実現に向け

輸液・栄養療法で活躍する薬剤師のノウハウを共有できる



「2次医療圏での基幹病院は高度専門・急性期医療を担い、地域の暮らしを支える中小病院は市区町村単位での医療・介護サービスを連携していく」役割分担が進んでいる。入院医療の「前」と「後」を支え、地域と病院との薬物療法を間断なくつないでいくために、薬剤師は患者の生活を考慮した服薬管理、さらには自立支援にもかかわることが大切である。

地域の保険薬局では在宅医療の充実に向けて、在宅患者の輸液・栄養療法へ参加する機会が増えていくと見込まれる。在宅医療の中心となる薬物療法、栄養療法は薬剤師の出番である。

本マニュアルのコンセプトは、「輸液・栄養療法の最前線で活躍する薬剤師が臨床業務で幾度も疑問や問題点にぶつかり、そのたびに薬学的視点で解決してきたノウハウを共有すること」であり、その記載内容はプラクティカルに徹している。目次は大きく、「I 栄養療法の基礎知識」と「II 症状別・疾患別の栄養介入のポイント」の2部構成となっている。

前半の約1/3を占める「I 栄養療

法の基礎知識」では、栄養アセスメント、栄養投与経路の選択、栄養素の投与量の算出方法など、静脈・経腸栄養を安全に行うために必要な情報が図表を用いてわかりやすく的確にまとめられている。また、輸液・栄養療法においては、医薬品のみならず医療材料の的確な選択と適正な使用が不可欠なものとなっており、在宅栄養の項目に薬剤投与に用いる医療材料の特徴や適正使用のポイントなどの情報がまとめられているのはうれしい。

そして本書の各論である「II 症状別・疾患別の栄養介入のポイント」では、「下痢」「糖尿病」「悪性腫瘍」など22の症状や疾患を取り上げている。各病態の理解を深めた上で、製剤学的特性を考慮した「静脈・経腸栄養療法のアプローチ」をするための最適な手引きとなっており、読者は処方設計支援などの栄養療法プランニングや有害事象のモニタリングを実践することができる。

本マニュアルを病院薬剤師や保険薬局薬剤師が傍らに置いて活用することで、病院の栄養サポートチーム(NST)から保険薬局への連携が深まり、その結果、オール薬剤師としてこの領域でさらに大きな力を発揮していくことを期待したい。

神経眼科 第4版 臨床のために

江本 博文, 清澤 源弘, 藤野 貞 ● 著

B5・頁504
定価:11,000円(本体10,000円+税10%) 医学書院
ISBN978-4-260-05116-3

【評者】若倉 雅登
医療法人社団済安堂井上眼科病院名誉院長

臨床神経眼科は神経科学と眼科学が統合された独立分野で、その萌芽は20世紀初頭の米国にあった。1947年 Frank B Walsh (1895~1978) の「Clinical Neuro-ophthalmology」が上梓されるに及び、神経眼科学は広く認知された。やがてこの国は、W.F. Hoyt (1926~2019)、J. Lawton Smith (1929~2011) からその道の泰斗を輩出し、神経眼科学は黄金時代を迎えた。

この時代にマイアミに留学した日本人医師がいた。藤野貞(1922~2005)、本書の初版の著者である。長崎大助教授を辞して、この新領域を学びに渡米したのである。そこでは臨床だけでなく、視交叉血管の研究にも打ち込んだ。そして、この新領域の臨床医学をひっそりと67年に帰国すると、東京、東京医科歯科、慶應義塾、北里、大分医科などの大学や都立病院で神経眼科臨床を実践し、85年には今も続く夏の勉強会を立ち上げた。日本の弱点とされる臨床実践教育のため、彼ははずれの常勤職にもならずして全国を奔走した。

その集大成『神経眼科—臨床のために』(医学書院)は1991年10月に誕生した。当時、眼科、神経内科、脳外科の医師たちは神経眼科という名称は側聞していても、どこか近寄り難い、難しい分野だと遠ざけがちだった。ただ、実臨床をしていると、この領域にかかわる症例にいやでも遭遇するから学習しやすいテキストブックを誰もが渴望していた。

藤野の教科書は、他の神経科学の教科書で多用される画像診断、電気生理

と挑戦、そして理論的な新たな概念の提唱は、まさに“ホンダイズム”である。CVSへの疑義など圧巻である。“Knack”“Pitfall”“Discussion”を通してホンダイズムの醍醐味を味わっていただきたい。

共著者の大目祐介先生という秀逸の弟子を得たことも、標準手技の確立と本書の上梓に至った要因であろう。ホンダイズムを視覚化・言語化する作業は、日々の大目先生への指導と彼の成

学的診断の図は一つもなく、代わりに著者自らが描いた解剖図、イラストがふんだんに使われた。また、近代装備を使わなくても十分高度な診療が可能だと「ポケットに入る神経眼科用検査用具」が紹介され、一部は付録としてつけられた。各項の記述は簡潔で、かつ引用文献は読者の学びやすさを考えた代表的和文論文が中心だった。時代的欲求と親しみやすさから、この出版は大反響を呼び5刷もの増刷を重ねた。

2001年には第2版が出版され、これも6刷の爆発的売れ行きだったが、この間に藤野氏は惜しくも逝去された。東京医科歯科大で藤野から実践教育を受けた江本博文、清澤源弘の2人の神経眼科医が、遺志を継いで第3版を執筆、2011年に出版。それから10年余、新知識は積み重なる。そして今回2023年4月、待望の第4版が完成。初版からみてページ数は倍加しているものの、初学者もベテラン医師もひとときとなる簡明さは確実に受け継がれている。

第3版までは記述がないか少なかったCRION, visual snow 症候群、脳脊髄液減少症、抗NMDA受容体脳炎、CLIPPERS 症候群などにも、しっかり新知識が盛り込まれ、欧文索引もついた。最近日本神経眼科学会から新診療ガイドラインが出た「眼瞼痙攣」についてもページ数を割いて詳述された。

総じて完成度の高い、かつ非常に親しみやすい教科書となっており、たちまち増刷の声が聞かれそうである。

坂の上のラパ肝・胆・膵 [Web動画付]

腹腔鏡下手術が拓く肝胆膵外科のNEWスタンダード

本田 五郎 ● 編
大目 祐介, 本田 五郎 ● 執筆

A4・頁376
定価:19,800円(本体18,000円+税10%) 医学書院
ISBN978-4-260-04984-9

【評者】坂井 義治
大阪赤十字病院院長

題中の「坂の上」とは一体どういう意味なのか? この本を手にした時に、本田五郎先生が愛読していた司馬遼太郎の著書の一つ『坂の上の雲』を想った。秋山好古・真之が明治維新に陸軍騎兵部

鋭い観察力と理論的考察 “ホンダイズム”の醍醐味

隊の創設や理論的な海戦術を考案したように、豊富なラパ消化管手術の経験の基にラパ肝・胆・膵手術に取り組み、その標準手技を確立した自らの体験を重ねたのだろうと推測したからである。この本の序文を読むと、私の推測は間違っていたようである。「坂の上」とは、本田先生がこれまで、そして今勤務している病院(都立駒込、

新東京、東京女子医大)が坂の上にあるからだという。しかし、これまで本田先生の臨床医としての経歴を見てきた一人として、彼の医学・医療への取り組みは、秋山兄弟同様に、現場での鋭い観察力と理論的考察力、そして篤い持続力という共通点を感じざるを得ない。

鋭い現場での観察力の一環は胆嚢摘出術における“SS-I層での剝離”の解説に見ることができる。最も安全な剝離層はどこにあるのか、その層は剝離中にどのように認識できるのか、病理組織ではどこに相当するのか、など深い観察力による既存の用語への疑問

と挑戦、そして理論的な新たな概念の提唱は、まさに“ホンダイズム”である。CVSへの疑義など圧巻である。“Knack”“Pitfall”“Discussion”を通してホンダイズムの醍醐味を味わっていただきたい。

共著者の大目祐介先生という秀逸の弟子を得たことも、標準手技の確立と本書の上梓に至った要因であろう。ホンダイズムを視覚化・言語化する作業は、日々の大目先生への指導と彼の成

長を通して蓄積されたものと思われる。

77本の手術動画とともに、その動画から抽出された明瞭な1600点を超える術中写真と、安全・確実を旨とした手技の説明は、外科修練医の教科書として比類なき教材であり、指導者にも今一度振り返りのために読んでいただきたい一冊である。

願わくは、手術動画に音声解説があれば、さらに理解を深めることができるであろう。次回の改訂に期待したい。

医学書院	医学界新聞	学会情報	書籍
ウェブサイト	閲覧	check	立ち読み
何が出来るの?			

頂をめざす外科医に贈る標準手術のガイドブック

坂の上のラパ肝・胆・膵 [Web動画付]

腹腔鏡下手術が拓く肝胆膵外科のNEWスタンダード

『臨床外科』誌の好評連載「坂の上のラパ肝・胆・膵」を大幅に改変・増補し書籍化。肝胆膵外科のエキスパートが磨き上げ標準化した腹腔鏡下手術を丁寧に解説する。多数の術中写真とWeb動画が手術の勘所の理解を促す。「Knack」「Pitfall」など経験に根差したコラムも随所に掲載。安全・確実を旨とした手技の説明は、開腹手術にも適用できる内容を多く含む。レベルアップをめざす外科医必読・必見の手術書。

編集 本田五郎



「じんわり」効く! ツボを押さえて、いざ臨床へ

押さえておきたい 小児心臓麻酔のツボ

▶小児心臓麻酔に関し、麻酔管理上のキーポイントにも触れつつ、先天性心疾患の解剖や病態生理に重点を置き、フォーマットに則り解説。そうした知識(ニツボ刺激)を得ることで、小児心臓手術の周術期管理の流れがスムーズに理解できる。先天性心疾患患者の生存率が上がり、すべての麻酔科医にとって先天性心疾患への最低限の知識が必要とされる現在、小児心臓手術に臨む麻酔科医だけでなく、遠く麻酔科医やそれを目指す専攻医が手元に置きたくなる一冊。

著: 木村 聡 京都大学医学部附属病院 麻酔科
監修: 清水一好 岡山大学病院 手術部
金澤伴幸 岡山大学病院 小児麻酔科

定価5,940円(本体5,400円+税10%)
A5 頁328 色図67 2023年
ISBN978-4-8157-3080-2

MEDI 医療・サイエンス・インターナショナル
TEL.(03)5804-6051 https://www.medi.co.jp
113-0033 東京都文京区本郷1-28-36 FAX.(03)5804-6055 Eメール info@medi.co.jp